

# 令和6年度 学校評価シート（最終報告）

●7月：第1回児童アンケートと教職員アンケート実施

●1月：第2回児童アンケートと教職員アンケート実施予定。保護者アンケート実施

\*評価:A:「十分に達成された」、B:「おおむね達成された」、C:「やや達成されなかった」、D:「達成されなかった」で評価

上田市立西小学校

学校教育目標・めざす児童の姿	今年度の重点目標	評価	成果と課題	改善策・向上策
支え合う・聴き合う・学び合う学校  〈めざす児童の姿〉 自ら課題を設定し、幅広く情報を集め、仲間と力を合わせて取り組む子ども	○聴き合う 互いの声に耳を傾け、聴き合うこと。教室に言葉が響き合うこと	A	・前期に比べ、後期は聴くことに関する職員評価が6%高くなった。	・学校目標について、児童の実態（課題や良さ）からどう大切なのかを職員で意見交換する機会をもつ。
	○支え合う 分からない時に遠慮せず「教えて」と言えること 「教えて」と言われたら、自分のすべてを使って伝え、支えること	A	・児童評価の「クラスへの安心感」の評価が、前期と比べ肯定的な評価が7%ほど高くなった。また、支え合うことについての職員評価が高くなり、職員の意識が高まっている。	・クラスへの安心感は、児童が「分からない」が言えることが大きく関わっている。「分からない」が言えるのが、児童同士でのやり取りなのか、対教師なのかは判断できないが、児童同士でのやり取りができるようにしていく。
	○学び合う 友と協働し、探究的な学びが深まること	A	・アンケート結果から、協働的な学びへの職員の意識は高くなっていくが、「ジャンプのある課題設定」の評価が低い。	・西小学校としての学び合う姿（目指したい児童の姿）をきめ出し、またジャンプの課題についての意味共有を図る。

領域	対象	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	教育課程	◇学校行事の充実	子どもたちを主役とし、満足感・達成感が残る行事を実施することができたか	B	・児童評価では、前期後期ともに90%以上の児童が「楽しい」「やってよかった」と思っている評価となった。「授業の延長としての行事」ということで継続し、「わくわくコンサート」では今年度は全校一斉で開催したりステージでの発表に戻したりしたが、職員や児童がともに負担なくとりくめていると評価する。	・行事の在り方は今後も検討をしていくが、子どもたちを主役とする考え方は大切にしていく。
		◇どの子ども安心して学べる教室環境づくり	掲示、発問、環境の工夫、個別の指導計画の活用、学校内外の連携により個に応じた指導が行えたか	A	・前期の職員評価より17%肯定的な評価が上がった。児童評価でも、安心して学べると感じている児童が7%増えた。日々の授業や行事などを通して、教師が児童の様子をつかむことができたことが考えられる。	・教室環境については、机の並びや掲示物など目に見える環境と、人間関係など目に見えない環境があり、それぞれを意識して整える必要がある。児童の様子を的確に見取って理解するためにも、学級担任だけでなく多くの職員で児童を見ていけるようにしたい。
	学習指導	◇協働的な学びの充実	教師は子どもの声に耳を傾けることができたか	A	・児童評価では、前期は90%に対し、後期は95%の児童が、先生は話を聞いてくれると答えた。さらに、否定的な評価も減少した。	・児童と教師の信頼関係づくりを大切にするとともに、子どもの声にならない声も聴こうとする意識をもっていきたい。
			◇ジャンプのある課題設定ができたか	B	・職員の評価を見ると、前期に比べて意識が高くなってきているが、取り組みに個人差がある。	・授業時間（45分間）いっぱい、頭と体をフル回転させて友と学び合う姿を目指した。2度の機会をいただいている村瀬先生の研修では、「児童が頭と体をフル回転させて友と学び合う場面はあったか」を視点に、職員の気づきを伝えあうことが、職員同士が互いに学び合うという点で価値があるものだったと確認できた。手段・手立てである「ジャンプ課題」が、目指す児童の姿よりも先行しているため、今年度の研究の成果を整理し、評価の観点も見直していくことも検討していく。
		友と関わり合いながらペアやグループで学びを深めることができたか	B	・前期と比べると、職員の肯定的な評価が上がった。	・学級づくりと同様に、授業を通しての人間関係づくりを継続したい。	
	◇体育学習の充実	運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業ができたか	B	・年間を通して8割～9割の児童が、体育の授業で体を動かすことが楽しいと感じている。職員評価を前期と比べると、後期はより体育の授業を充実させたことが分かる結果となった。	・体育係を中心に、学校全体で実践を紹介したり運動に親しんだりする土台ができていく。引き続き継続するとともに、次のステップとしてスポーツテストの結果などを見ながら、本校の課題を明らかにして重点的に取り組むようにする。	
	生活指導	◇人権教育の充実	人権教育の授業改善を進め、いじめや差別のない学級とすることができたか	B	・前期（7月）の児童アンケートの結果では、7割弱がクラスでは仲良く過ごしていると回答していた。後期（1月）ではそれが8割となり、日々の学級指導の成果が出てきた。反面、教員アンケートでは評価が低くなってきている。	・人権教育は日々の指導の積み重ねが大切であるが、学級をスタートさせる年度当初の取り組みに力を入れたい。また、人権学習を意識して継続して行うようにしていく。
◇つながりを深める交流活動		ペア学級など異年齢との交流を通して、周りの人のことを考えようとする気持ちを育てることができたか	A	・各学年で、交流活動を積極的に行うことができた。5年生では、保育園、幼稚園との交流を行った。児童会活動では、昨年度よりもペア学級での交流の回数が多かった。	・1回1回の質も大切であるが、日常的に交流活動を増やしていきたい。繰り返し行う中で、相手意識などを学べる価値ある活動なので、日常的な交流活動を考えていきたい。	

学校運営	地域との連携	◇ふるさと学習の充実	生活科や総合的な学習の時間にふるさとで学びを深めることができたか	A	・各学年で、学校の外に出て上田市の産業や町の様子について学ぶ機会を設け、教室では体験できないことを学ぶことができた。	・地域に出て学ぶ機会を引き続き大切にしていきたい。今年度行った活動を振り返り、来年度につなげていけるようにする。
	地域との連携	◇地域ボランティアの支援	ボランティア活動を積極的に進めることができたか	B	・「ぶんぶんぶん」による読み聞かせ、クラブ活動、放課後学習など、今年度も継続して進めることができた。	・地域ボランティアの方々に協力していただけるのが当たり前ではなく、1回1回感謝の気持ちをもって取り組めるよう、児童に働きかけていきたい。
	研修	◇教職員の指導力向上	互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善することができたか	B	・職員同士で互いの授業を見合う場面は少なかったが、自分の日々の実践を発信できる電子媒体を使い、授業での悩みを共有したりアドバイスしあったりすることができる雰囲気が出てきた。	・5月と11月の村瀬先生の研修会を通して、職員同士が学び合う大切さを再確認できた。なかなか日常的に授業を見合う場面はないが、Googleのチャット機能を使い、日々の実践を紹介したりアドバイスしあったりすることを始め、他学年の様子を知ったり同僚性を高めたりする方法の一つとして有効であることが分かってきた。指導力につなげるための手段として継続して利用したい。